

クラウンレンジスニング

歯肉の上に十分な歯質がない場合に、外科的に骨を削除することによって歯肉を後退させて、埋まっている歯根の一部を露出させる方法

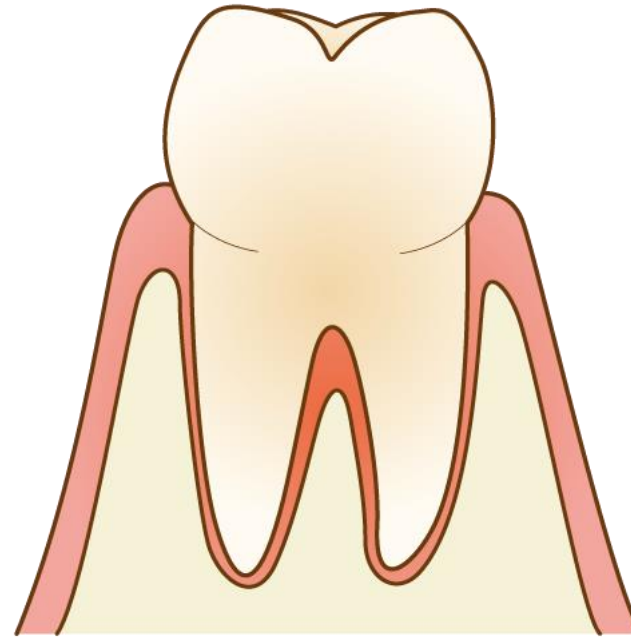
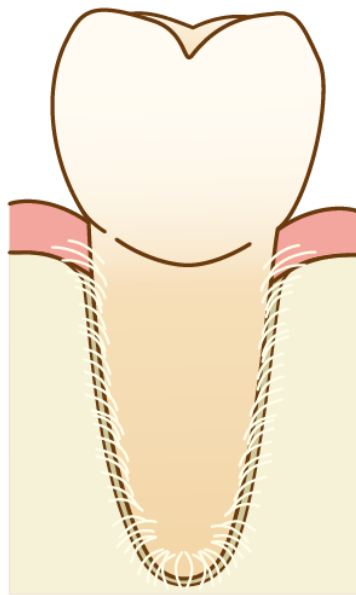


クラウンレングスニングの対象となる歯

クラウンレングスニングはエクストルージョンでは難しい大白歯や審美が求められない小臼歯などの失活歯(神経がない歯)が適応になります。

また前歯であれば歯肉がそろってない部位はクラウンレングスニングで歯肉をそろえることができます。

歯周病がかなり進行している場合などは骨整形すると歯根がさらに短くなり対応が難しい場合があります。



クラウンレングスニングの目的

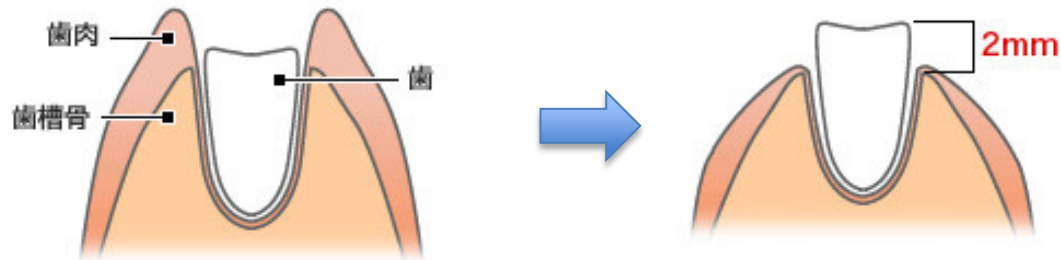
●抜歯するしかない状態の歯を残す

重度の虫歯や、歯が割れたり折れたりして、歯肉より上の部分がほとんど失われているケースでも、患部の下にある健康な部分を歯肉の上に出せれば、抜歯をせず歯を残せる場合があります。

しかし、クラウンレングスニングでは外科処置によって健全歯質を骨縁上まで露出させ、歯周組織を調整してから最終的な治療を行います。このような治療は条件が揃わなければなりません。一つひとつの処置を精密に行うことで健康な状態の歯を残せます。

●被せ物を外れにくくする

歯にクラウン(被せ物)を被せたとき、土台として接触する象牙質の部分(フェルール)が大きいほど、歯へのダメージが少なくなります。歯肉弁根尖側移動術で埋没部分を外科処置により露出させ「土台」を十分に確保できます。



●審美性の確保

歯肉が目立つことで「口を開けて笑えない」というコンプレックスに対応するため、ガムライン(歯肉の高さ)を修正して歯の長さを揃えたり形を修正して審美性の確保に応用できます。

クラウンレングスニングのデメリット

● 歯根が弱くなる

歯根の周囲骨を削ることになるので、相対的に歯根の長さが短くなります。そのため、維持力が落ちたり、歯根が割れやすくなる可能性が高くなります。あまりにも短くなる場合の対処法として隣の歯と連結する場合があります。

治療手順

1:根管治療

根の治療が必要な方は根の治療をしていきます。根の治療がしっかりしていないと治療後に痛みがでたり、被せ物をした後に根の治療が必要になる場合があります。

2:歯肉切除、骨切除

浸潤麻酔した後、歯肉を切除し、歯根周囲の骨を削合、形を整えた後に縫い合わせます。

3:消毒、抜糸

翌日術部の消毒にお越しいただき、約1週間で糸をとります。